

Symantec Enterprise Vault™

Microsoft Outlook 2010 ユーザー用ガイド

9.0

Symantec Enterprise Vault: Microsoft Outlook 2010 ユーザー用ガイド

本書で説明するソフトウェアは、使用許諾契約に基づいて提供され、その内容に同意する場合にのみ使用することができます。

最終更新日: 2011-11-01

法的通知と登録商標

Copyright © 2011 Symantec Corporation. All rights reserved.

Symantec、Symantec ロゴ、Veritas、Enterprise Vault、Compliance Accelerator、Discovery Accelerator は、Symantec Corporation または同社の米国およびその他の国における関連会社の商標または登録商標です。その他の会社名、製品名は各社の商標または登録商標です。

この Symantec 製品には、サードパーティ(「サードパーティプログラム」)の所有物であることを示す必要があるサードパーティソフトウェアが含まれている場合があります。サードパーティプログラムの一部は、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスで提供されます。本ソフトウェアに含まれる本使用許諾契約は、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスでお客様が有する権利または義務を変更しないものとします。サードパーティプログラムの詳細については、この Symantec 製品に含まれるサードパーティソフトウェアのファイルをご参照ください。

本書に記載する製品は、使用、コピー、頒布、逆コンパイルおよびリバースエンジニアリングを制限するライセンスに基づいて頒布されています。Symantec Corporation からの書面による許可なく本書を複製することはできません。

Symantec Corporation が提供する技術文書は Symantec Corporation の著作物であり、Symantec Corporation が保有するものです。保証の免責: 技術文書は現状有姿のままで提供され、Symantec Corporation はその正確性や使用について何ら保証いたしません。技術文書またはこれに記載される情報はお客様の責任にてご使用ください。本書には、技術的な誤りやその他不正確な点を含んでいる可能性があります。Symantec は事前の通知なく本書を変更する権利を留保します。

ライセンス対象ソフトウェアおよび資料は、FAR 12.212 の規定によって商業用コンピュータソフトウェアとみなされ、場合に応じて、FAR 52.227-19「Commercial Computer Software - Restricted Rights」、DFARS 227.7202「Rights in Commercial Computer Software or Commercial Computer Software Documentation」、その後継規制の規定により制限された権利の対象となります。

弊社製品に関して、当資料で明示的に禁止、あるいは否定されていない利用形態およびシステム構成などについて、これを包括的かつ暗黙的に保証するものではありません。また、弊社製品が稼動するシステムの整合性や処理性能に関しても、これを暗黙的に保証するものではありません。

これらの保証がない状況で、弊社製品の導入、稼動、展開した結果として直接的、あるいは間接的に発生した損害等についてこれが補償されることはありません。製品の導入、稼動、展開にあたっては、お客様の利用目的に合致することを事前に十分に検証および確認いただく前提で、計画および準備をお願いします。

目次

第 1 章	Symantec Enterprise Vault の概要	5
	Enterprise Vault と Outlook のメールボックスについて	5
	Outlook のボルトキャッシュのユーザーについて	6
	Outlook ユーザーの仮想ボルトについて	7
	Enterprise Vault を使ったオフラインでの作業について	8
	Enterprise Vault でアーカイブするアイテムを選択する方法	9
	アーカイブ済みアイテムの保持期間について	10
	Enterprise Vault と Outlook の対話について	10
第 2 章	Enterprise Vault の設定	11
	Outlook での Enterprise Vault の設定について	11
	ボルトキャッシュと仮想ボルトの設定	11
	仮想ボルトの表示または非表示	13
	Outlook の[古いアイテムの整理]の無効化	13
	Windows Search の設定	14
第 3 章	Enterprise Vault のオプションとメールボックスアイ コン	17
	Enterprise Vault のオプションとツールバーボタン	17
	Enterprise Vault Outlook メールボックスアイコン	20
第 4 章	アーカイブ済みアイテムを使った操作	21
	アーカイブ済みアイテムの表示	21
	アーカイブ済みアイテムの検索	22
	アーカイブ済みアイテムへの返信と転送	22
	アーカイブ済みアイテムの削除	23
	アーカイブ済みアイテムの削除の取り消し	24
第 5 章	アイテムの格納と復元	25
	手動によるアイテムの格納	25
	手動によるフォルダの格納	26
	アーカイブ済みアイテムの復元	26
	アーカイブ操作と復元操作の取り消し	28

第 6 章 Enterprise Vault アーカイブの管理 29

 ボルトキャッシュの同期 29

 ボルトキャッシュのプロパティの表示と変更 32

索引 35

Symantec Enterprise Vault の概要

この章では以下の項目について説明しています。

- Enterprise Vault と Outlook のメールボックスについて
- Outlook のボルトキャッシュのユーザーについて
- Outlook ユーザーの仮想ボルトについて
- Enterprise Vault を使ったオフラインでの作業について
- Enterprise Vault でアーカイブするアイテムを選択する方法
- アーカイブ済みアイテムの保持期間について
- Enterprise Vault と Outlook の対話について

Enterprise Vault と Outlook のメールボックスについて

Enterprise Vault では、電子メールと添付ファイルが Outlook メールボックスのフォルダからボルトと呼ばれるオンラインストレージ領域に自動的に移動されます。この処理は、アーカイブと呼ばれます。Enterprise Vault では、アーカイブは自動的に実行され、通常は混雑していない時間に行われます。

Enterprise Vault で電子メールがアーカイブされた後も、それらの電子メールを次の方法で Outlook で利用できます。

- ほとんどの管理者は、アーカイブ済みの各電子メールへのショートカットを自分のメールボックスに配置するように Enterprise Vault を設定します。ショートカットでメールボックスフォルダにある電子メールが置き換えられるため、アーカイブ済みの電子メールにすばやくアクセスできるようになります。ショートカットには、Outlook アイテムの一覧では次の特殊アイコンが付いています。



ショートカットは元の電子メールのように表示され、同じように機能します。たとえば、ショートカットからの電子メールの開封、電子メールへの返信、別のフォルダへのコピーまたは移動を行うことができます。一定時間の経過後にショートカットの期限が切れるように管理者が **Enterprise Vault** を設定できます。期限切れのショートカットはメールボックスに表示されなくなりますが、アーカイブ済みアイテムはボルトに残ります。

- 管理者が有効にした場合は、**Outlook** によってナビゲーションペインにボルトが仮想ボルトとして表示されます。

Enterprise Vault によって電子メール以外の **Outlook** アイテムからアーカイブされるように管理者が設定できます。そのような場合は、適切なフォルダビューで仮想ボルトにあるアーカイブ済み **Outlook** カレンダーアイテム、仕事、連絡先、メモが表示されます。

アーカイブは自動的に行われますが、いつでも手動でボルトにアイテムを格納することができます。アイテムを格納すると、**Enterprise Vault** はそのアイテムをアーカイブ済みアイテムとしてボルトに追加します。格納したアイテムは他のアーカイブ済みアイテムと同じように扱われます。

アーカイブ済みアイテムを元の形式でメールボックスに移動またはコピーして復元することもできます。開封、返信、その他の処理を実行するためにアーカイブ済みアイテムを復元する必要はありません。

複数の **Microsoft Exchange** アカウントへのアクセス権がある場合、プライマリメールボックスのアイテムに対する **Enterprise Vault** の処理のみを使うことができることに注意してください。プライマリメールボックスは **Outlook** プロファイルに追加された最初の **Exchange** メールボックスです。

Enterprise Vault は、通常、コンピュータの個人用フォルダ (PST) ファイルに保持されている情報はアーカイブしません。しかし、管理者がユーザーのためにアイテムをアーカイブすることができます。個人用フォルダのファイル内にアーカイブする必要のあるアイテムがある場合は、管理者に連絡してください。

Outlook のボルトキャッシュのユーザーについて

管理者は、ボルトキャッシュ機能をユーザーが利用できるようにすることができます。ボルトキャッシュはユーザーのコンピュータ上にあり、オンラインボルトにあるアイテムのコピーが入っています。次のことを行う場合は、ボルトキャッシュが必要です。

- 社内ネットワークに接続していないときにショートカットからアーカイブ済みアイテムにアクセスする。
- 仮想ボルトを使う。

管理者は、ボルトキャッシュにアーカイブ済みアイテム全体を格納するか、部分的なアーカイブ済みアイテムを格納するかを選択できます。ユーザーがこのオプションを変更する

ことはできません。部分的なアーカイブ済みアイテムには、仮想ボルトが **Outlook** アイテムの一覧に表示するのに十分な情報が含まれますが、アイテムの内容全体は含まれません。

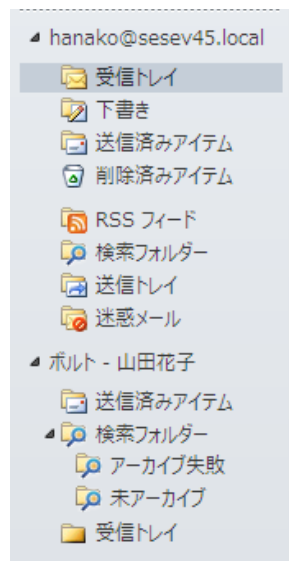
ボルトキャッシュに部分的なアーカイブ済みアイテムが格納される場合、**Enterprise Vault** は必要に応じてオンラインボルトから内容全体を取り込みます。たとえば、仮想ボルトからアイテムが開かれると、**Enterprise Vault** はアーカイブ済みアイテムの内容全体を取り込みます。ボルトキャッシュの種類（つまり、ボルトキャッシュにアーカイブ済みアイテム全体が格納されるか、部分的なアーカイブ済みアイテムが格納されるか）は、オフラインで作業するときのアーカイブ済みアイテムへのアクセスに影響します。

Enterprise Vault は、オンラインボルトとボルトキャッシュを定期的に同期します。ユーザーが同期処理を開始できるように管理者が設定する場合もあります。

Outlook ユーザーの仮想ボルトについて

管理者が有効にした場合は、**Outlook** によってナビゲーションペインにボルトが表示されます。**Enterprise Vault** のこの機能は、**仮想ボルト**と呼ばれます。仮想ボルトは、**Outlook** ナビゲーションペインでメールボックスフォルダまたは個人用フォルダと同じように表示されます。図 1-1 に、メールボックスと仮想ボルトを示します。

図 1-1 仮想ボルトの例



選択したボルトの内容は、**Outlook** ナビゲーションペインに表示されます。ボルトのアイテムを開いて、転送、返信、移動、削除などのアイテムの通常の **Outlook** 処理を実行できます。

仮想ボルトでは、常にオンラインボルトではなくボルトキャッシュにあるアイテムが表示されます。最近の変更が同期されなかった場合、仮想ボルトはオンラインボルトに一致しないことがあります。

管理者による Enterprise Vault の設定方法によっては、ボルトにアイテムを移動してアーカイブを実行できる場合があります。ボルトにアイテムを移動する権限があれば、仮想ボルトはこれら 2 つの検索フォルダを含みます。

アーカイブ失敗 Outlook のメールボックスに関連付けされたオンラインボルトとボルトキャッシュを同期させたときに Enterprise Vault によってアーカイブされなかったアイテムが表示されます。

アーカイブ先 仮想ボルトに移動またはコピーされたアイテムと、アーカイブを待機しているアイテムが表示されます。何らかの理由で Enterprise Vault によってアーカイブされなかったアイテムはフォルダに含まれません。

仮想ボルトでは次の点に注意してください。

- 仮想ボルトでは、共有アーカイブ、代行アーカイブ、Exchange が管理するフォルダの内容は表示できますが、これらのケースの内容は変更できません。
- 仮想ボルトには、パブリックフォルダのアイテムを含めることはできません。
- アイテムの変更 (内容または読み込み状態の変更、追跡のためのフラグの追加または変更など) は行えません。
- 仮想ボルトのすべてのアイテムは既読になっています。
- 仮想ボルトフォルダは、フォルダがメールボックスの中に存在しないときのみ、移動、削除、名前の変更を行うことができます。
- 仮想ボルトフォルダのプロパティを表示することはできません。

Enterprise Vault を使ったオフラインでの作業について

Enterprise Vault では、メールボックスからアイテムをアーカイブするとき、通常、アーカイブ済みアイテムに直接リンクするショートカットが残ります。アイテムをショートカットに置き換えることで、メールボックスの空き容量を節約できます。しかし、オフラインで作業する場合や社内ネットワークに接続していない場合は、ショートカットをダブルクリックしてもオンラインボルト内のアイテムを開くことはできません。

ボルトキャッシュによって、オフラインの場合または社内ネットワークに接続していない場合でもアーカイブ済みアイテムに瞬時にアクセスできます。ボルトキャッシュを設定したら、次の方法でアーカイブ済みアイテムを取得できます。

- メールボックスにある対応するショートカットからアイテムを開きます。
- 仮想ボルトからアイテムを開きます。

管理者が、ボルトキャッシュに部分的なアーカイブ済みアイテムが格納されるように設定している場合があることに注意してください。この種類のボルトキャッシュでは、オンラインボルトへの接続がないと、アーカイブ済みアイテムの内容全体にアクセスできません。

また、ボルトキャッシュに部分的なアイテムと、オンラインでの作業時に開いたアイテムの内容全体の両方が格納されている場合があります。この場合は、オンラインボルトへの接続がない場合でも、以前に開いたアイテムを開くことができます。

オフラインで作業するときにアーカイブエクスプローラへのアクセス権がある場合は、別の方法でボルトキャッシュ内のアーカイブ済みアイテムにアクセスできます。

オフラインで作業する場合は、**Enterprise Vault** のボタンとコマンドを使って次の処理を実行することはできません。

- ボルトへのアイテムの格納。
- **Enterprise Vault** ショートカットからのアイテムの復元。
- ボルトからのアイテムの削除。

ただし、仮想ボルトを使って、アイテムを格納、復元、削除することができます。これらの処理は、次の同期後にオンラインボルトで有効になります。

Enterprise Vault でアーカイブするアイテムを選択する方法

Enterprise Vault では、メールボックスからアーカイブするアイテムが次の方法のいずれか、または両方で選択されます。

- アイテムの経過日数。指定した経過日数に達するとすぐに **Enterprise Vault** によってアイテムが自動的にアーカイブされます。
メールメッセージの経過日数は、送信または受信した日からカウントされます。文書の経過日数は、最後に更新された日付から取得されます。
- メールボックスサイズ。メールボックスに一定の割合の空き容量が確保されるまで、**Enterprise Vault** によってアイテムが古い順にメールボックスにアーカイブされます。

これらの戦略の両方を適用すると、**Enterprise Vault** は、まず経過日数に基づくアーカイブを実行します。経過日数に基づくアーカイブでメールボックスに十分な空き領域が確保されない場合、**Enterprise Vault** は、必要な領域の割合が確保されるまでアイテムをさらにアーカイブします。

経過日数によるアーカイブとメールボックスのサイズの限度の割合によるアーカイブは、アーカイブするアイテムを選択するための主要な戦略です。**Enterprise Vault** によってサイズの大きいアイテムからアーカイブされるように管理者が設定している場合もあります。大きいアイテムを最初にアーカイブすることは、主要なアーカイブ戦略に追加する形で機能します。大きいサイズのアイテムからのアーカイブは、比較的少数のアイテムをアーカイブするのみでメールボックスの空き容量を回復できるという点で便利です。

アーカイブ戦略は、管理者がすべて制御します。ユーザーがアーカイブ戦略を表示または変更することはできません。

アーカイブ済みアイテムの保持期間について

Enterprise Vault では、アイテムをアーカイブするときに、保持カテゴリを自動的にアイテムに割り当てます。保持カテゴリでは、アイテムの保持期間を指定します。管理者は、業務または法務などの各種のデータに対してさまざまな保持カテゴリを設定できます。**Enterprise Vault** では、ボルトを監視しているため、保持期間が経過したアイテムを削除できます。

保持カテゴリは、管理者がすべて制御します。ユーザーが保持カテゴリを表示または変更することはできません。

Enterprise Vault と Outlook の対話について

Outlook の対話として配置されるアイテムに対して **Enterprise Vault** の処理を実行できます。処理は通常のフォルダビューの場合と同様に動作します。アイテムに対して **Enterprise Vault** の処理を実行するには、対話ヘッダーのみを選択するのではなく、対話内のアイテムを選択しなければなりません。

Outlook の対話には、アーカイブされていないアイテム、**Enterprise Vault** のショートカット、仮想ボルトにあるアーカイブ済みアイテムが含まれる場合があります。

1 つ以上の対話からアイテムを選択し、次にそれらのアイテムのいくつかに対して実行できない **Enterprise Vault** の処理を選択することがあります。この場合、**Enterprise Vault** は次の処理を実行します。

- 処理が可能なアイテムの処理を実行します。
- 処理が正常に完了しなかったアイテムをリストし、その理由を示すダイアログボックスを表示します。

たとえば、次を選択して **Enterprise Vault** にそれらの格納を試みるとします。

- 受信ボックスにあるいくつかのアーカイブされていないアイテム
- 個人用フォルダにあるいくつかのアーカイブされていないアイテム
- 仮想ボルトにすでにあるいくつかのアイテム

Enterprise Vault はアーカイブされていないアイテムを格納し、個人用フォルダのアイテムとすでにアーカイブされているアイテムをリストします。

Enterprise Vault の設定

この章では以下の項目について説明しています。

- Outlook での Enterprise Vault の設定について
- ボルトキャッシュと仮想ボルトの設定
- 仮想ボルトの表示または非表示
- Outlook の[古いアイテムの整理]の無効化
- Windows Search の設定

Outlook での Enterprise Vault の設定について

Enterprise Vault は、インストール後すぐに使うことができます。ただし、ボルトキャッシュと仮想ボルトを使う場合は、追加の設定が必要になることがあります。

仮想ボルトが Outlook ナビゲーションペインに表示されていない場合は、仮想ボルトとボルトキャッシュはどちらも設定する必要はありません。仮想ボルトが存在していなくても、ユーザーが仮想ボルトを利用できるように管理者が設定している場合は、ボルトキャッシュのみを設定する必要があります。

ボルトキャッシュと仮想ボルトの設定

ボルトキャッシュがあらかじめ設定されていない場合は、ボルトキャッシュウィザードを実行できます。このウィザードは、Outlook を起動したときに自動的に起動する場合があります。ウィザードが自動的に起動しない場合は、次の手順を実行します。

ウィザードを 1 回だけ実行します。ウィザードでボルトキャッシュを設定すると、初回の同期を開始します。同期は、ボルトキャッシュをオンラインボルトに対応した最新の状態に保つ処理です。

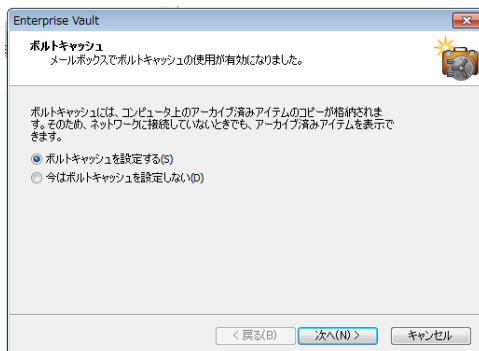
仮想ボルトについてはこれ以上設定する必要はありません。初回の同期が完了すると、通常、仮想ボルトは**Outlook**のナビゲーションペインに表示されます。表示されない場合は、表示するオプションを選択できます。

p.13 の「**仮想ボルトの表示または非表示**」を参照してください。

ボルトキャッシュを設定する方法

- 1 [ファイル]タブをクリックし、[Enterprise Vault]をクリックします。
- 2 [ボルトキャッシュを有効化]をクリックします。

ボルトキャッシュウィザードが表示されます。



- 3 ボルトキャッシュウィザードの最初のページで[ボルトキャッシュを設定する]を選択し、[次へ]をクリックします。
- 4 次のページに[経過日数を限定する]オプションが表示されたときは、ボルトキャッシュに自動的にダウンロードするアーカイブ済みアイテムの最大経過日数を選択できます。このページは、管理者が特定の **Enterprise Vault** オプションを設定している場合にのみ表示されます。

経過日数の制限を適用するには、次の手順を実行します。

- [経過日数を限定する]にチェックマークを付けます。
- ボルトキャッシュに自動的にダウンロードするアーカイブ済みアイテムの最大経過日数の値を入力します。
- [次へ]をクリックします。

経過日数の制限を適用しない場合は、[経過日数を限定する]のチェックマークをはずします。

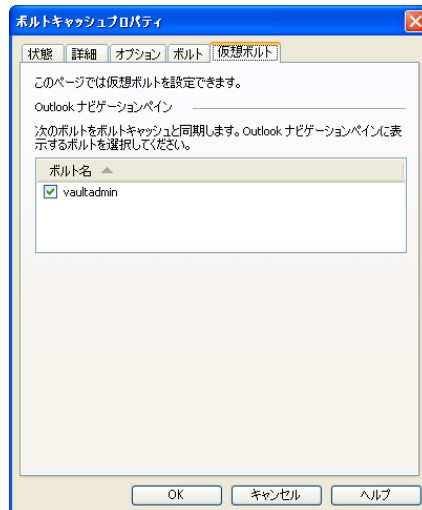
- 5 最終ページで[完了]をクリックして同期を開始します。

仮想ボルトの表示または非表示

通常、仮想ボルトは、ボルトキャッシュの設定後に Outlook ナビゲーションペインに自動的に表示されます。ただし、場合によっては、表示させるために次の手順が必要となる場合があります。

仮想ボルトを表示または非表示にする方法

- 1 [ファイル]タブをクリックし、[Enterprise Vault]をクリックします。
- 2 [ボルトキャッシュを設定]をクリックします。
- 3 [仮想ボルト]タブで、Outlook ナビゲーションペインで表示または非表示にするボルト名にチェックマークを付けるかはずします。



- 4 [OK]をクリックします。

Outlook ナビゲーションペインで仮想ボルトを右クリックしてから[ボルト - 名前を閉じる]をクリックして非表示にすることもできます。

Outlook の[古いアイテムの整理]の無効化

Outlook の[古いアイテムの整理]は、Enterprise Vault アーカイブ機能と異なります。Outlook の[古いアイテムの整理]では、アイテムは個人用フォルダ (PST) ファイルにアーカイブされますが、Enterprise Vault ではネットワーク上のボルトにアーカイブされます。アーカイブ済みアイテムは安全にバックアップでき、それらのアイテムを表示、検索、復元することもできます。今後 Enterprise Vault を使ってメールボックスのアイテムをアーカイブするので、Outlook の[古いアイテムの整理]を無効にすることを推奨します。

Outlook の[古いアイテムの整理]を無効にする方法

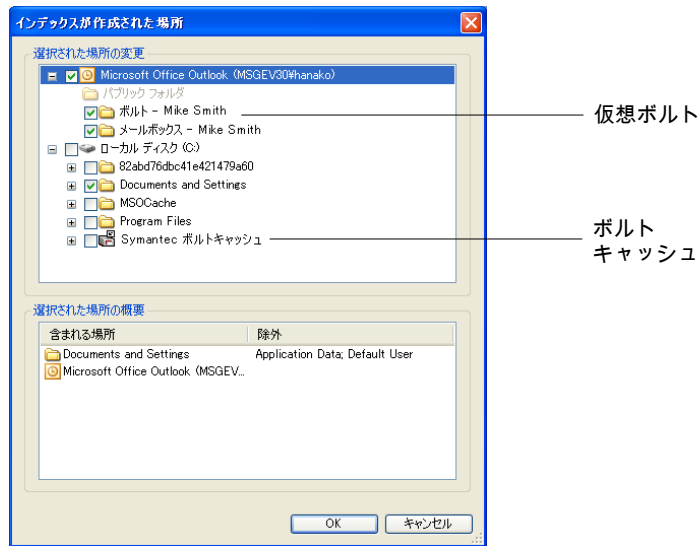
- 1 [ファイル]タブをクリックし、[オプション]をクリックします。
- 2 [詳細設定]をクリックします。
- 3 [古いアイテムの整理]で、[自動整理の設定]をクリックします。
- 4 [次の間隔で古いアイテムの整理を行う] (日数) のチェックマークをはずします。
- 5 [OK]をクリックします。
- 6 前のビューに戻るには、[Outlook のオプション]ダイアログボックスを閉じます。

Windows Search の設定

Windows Search でボルトキャッシュと仮想ボルトが自動的に有効になるように管理者が Enterprise Vault を設定しているかどうかを確認するには、次の手順を実行します。また、この手順を使うと、必要に応じて Windows Search を設定することもできます。

Windows Search のオプションを確認する方法

- 1 Outlook で、[インデックスのオプション]ダイアログボックスを開きます。このダイアログボックスを開く方法は、使っている Windows のバージョンによって異なります。次に例を示します。
 - Windows XP では、Windows タスクバーの[Windows Search]アイコンを右クリックし、[Windows Search のオプション]をクリックします。
 - Windows 7 では、[スタート]、[コントロール パネル]の順にクリックします。検索フィールドに、「インデックスのオプション」と入力し、[インデックスのオプション]をクリックします。
- 2 [インデックスのオプション]ダイアログボックスで、[変更]をクリックします。
[インデックスが作成された場所]ダイアログボックスが表示されます。(次の図に、Windows XP バージョンのダイアログボックスを示します。)



- 3 [選択された場所の変更]リストで、仮想ボルトのエントリが選択されていることを確認します。また、リストに **Symantec** ボルトキャッシュの場所が表示されている場合は、それが選択されていることも確認します。
- 4 [OK]をクリックします。
- 5 [インデックスのオプション]ダイアログボックスを閉じます。

コンピュータがアイドル状態になると、**Windows Search** によってインデックスが更新され、ボルトキャッシュにアイテムが含まれるようになります。

Enterprise Vault のオプションとメールボックスアイコン

この章では以下の項目について説明しています。

- [Enterprise Vault のオプションとツールバーボタン](#)
- [Enterprise Vault Outlook メールボックスアイコン](#)

Enterprise Vault のオプションとツールバーボタン

管理者の Enterprise Vault の設定方法によっては、Microsoft Outlook のリボンの [Enterprise Vault] タブでいくつかのボタンを利用できる場合があります。

図 3-1 [Enterprise Vault] タブ



[その他]グループに[その他の処理]ボタンが含まれる場合があります。管理者は、Enterprise Vault オプションを [Enterprise Vault] タブにボタンとして直接配置する代わりに、コマンドとしてその他の処理メニューに配置できます。次の例は、その他の処理メニューの [キャンセル操作] コマンドを示します。

図 3-2 その他の処理メニュー



表 3-1 に、[Enterprise Vault] タブまたはその他の処理メニューに表示される可能性があるすべてのオプションを示します。一部のオプションは、その他の処理メニューに表示される場合、名前が長くなります。この表では、長い名前を丸括弧内に示します。たとえば、[アーカイブ] オプションはその他の処理メニューに [ボルトに格納] と表示されます。

表 3-1 [Enterprise Vault] タブまたはその他の処理メニューのオプション

オプション	アイコン	説明
ボルトの検索		利用可能なボルト内のアーカイブ済みアイテムを検索します。 p.22 の「 アーカイブ済みアイテムの検索 」を参照してください。 [ボルトの検索] ボタンは、[Enterprise Vault] タブにある場合、Outlook の [検索] タブにも表示されます。
アーカイブエクスプローラ		ボルト内のアイテムのツリービューを表示します。 [アーカイブエクスプローラ] ボタンは、[Enterprise Vault] タブにある場合、Outlook の [検索] タブにも表示されます。
アーカイブ (ボルトに格納)		選択したアイテムをアーカイブします。 このオプションは、メールボックスのアイテムにのみ使うことができます。仮想ボルトのアイテムには使えません。 p.25 の「 手動によるアイテムの格納 」を参照してください。
復元 (ボルトから復元)		選択した Enterprise Vault ショートカットに関連付けられているアイテムを復元します。 このオプションは、メールボックスのアイテムにのみ使うことができます。仮想ボルトのアイテムには使えません。 p.26 の「 アーカイブ済みアイテムの復元 」を参照してください。

オプション	アイコン	説明
削除 (ボルトから削除)		<p>アーカイブ済みアイテムを削除します。</p> <p>このオプションは、メールボックスのアイテムにのみ使うことができます。仮想ボルトのアイテムには使えません。</p> <p>p.23 の「アーカイブ済みアイテムの削除」を参照してください。</p>
キャンセル (キャンセル)		<p>現在進行中の Enterprise Vault での処理を取り消します。次の処理を取り消すことができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 削除 (ボルトから削除) ■ アーカイブ (ボルトに格納) ■ 復元 (ボルトから復元) <p>このオプションは、メールボックスのアイテムにのみ使うことができます。仮想ボルトのアイテムには使えません。</p> <p>p.24 の「アーカイブ済みアイテムの削除の取り消し」を参照してください。</p> <p>p.28 の「アーカイブ操作と復元操作の取り消し」を参照してください。</p>
同期 (ボルトキャッシュを同期)		<p>ボルトキャッシュとオンラインボルトを同期します。</p> <p>p.29 の「ボルトキャッシュの同期」を参照してください。</p>
その他の処理		<p>1 つ以上の追加の Enterprise Vault コマンドを含むメニューを表示します。</p> <p>Enterprise Vault 管理者がオプションを [Enterprise Vault] タブにボタンとして直接表示するか、コマンドとしてその他の処理メニューに表示するかを制御します。</p>

Enterprise Vault は Outlook Backstage ビューに自身のページを追加します。
(Backstage ビューは Outlook の [ファイル] タブをクリックすると表示されます。) Enterprise Vault のページはシステム情報を含み、さらに Enterprise Vault ボタンを含む場合があります。

表 3-2 に Backstage ビューの Enterprise Vault のページに存在する場合がある Enterprise Vault ボタンをリストします。





表 3-2 Backstage ビューの Enterprise Vault ボタン

ボタン	アイコン	説明
ボルトキャッシュを有効化		ボルトキャッシュウィザードを実行します。 p.11 の「ボルトキャッシュと仮想ボルトの設定」 を参照してください。
ボルトキャッシュを設定		[ボルトキャッシュのプロパティ]ダイアログボックスを開きます。 p.32 の「ボルトキャッシュのプロパティの表示と変更」 を参照してください。
有効期限レポート		保持期間の終了が近づいているために Enterprise Vault によってボルトから削除されるアイテムを表示します。必要に応じて、選択したアイテムをメールボックスに復元できます。

Enterprise Vault Outlook メールボックスアイコン

Outlook のメールボックスにあるアイテムは次のアイコンでマーク付けされます。

表 3-3 Enterprise Vault メールボックスアイコン

アイコン	説明
	アーカイブ済みアイテムへのショートカット。ショートカットをダブルクリックすると元のアイテムの内容を表示できます。アイテムの返信、転送や Outlook で利用可能な他の処理を実行できます。または、ショートカットを選択してアイテムをメールボックスに復元することもできます。
	アーカイブ保留。Enterprise Vault は、ボルトに格納されるアイテムにマーク付けを行います。
	復元保留。ボルトからアイテムを復元するように選択されています。 復元されたアイテムは、アーカイブ前のアイテムになります。元のアイコンが設定されます。アイテムのコピーはボルトに残ります。
	削除保留。ボルトからアイテムを削除するように選択されています。また、Enterprise Vault はメールボックスからショートカットも削除します。

アーカイブ済みアイテムを使った操作

この章では以下の項目について説明しています。

- [アーカイブ済みアイテムの表示](#)
- [アーカイブ済みアイテムの検索](#)
- [アーカイブ済みアイテムへの返信と転送](#)
- [アーカイブ済みアイテムの削除](#)
- [アーカイブ済みアイテムの削除の取り消し](#)

アーカイブ済みアイテムの表示

Enterprise Vault では、アイテムをアーカイブするときに、ショートカットをメールボックスに残しておくことができます。このショートカットは、アーカイブ済みアイテムへの直接リンクです。

アイテムをすぐに利用できない場合は、代わりにショートカットの内容が Enterprise Vault に表示されます。ここで、メールボックスにアイテムを復元することを選択できます。

仮想ボルトにあるアーカイブ済みアイテムを表示することもできます。

アーカイブ済みアイテムを表示する方法

- 1 アイテムのショートカットを選択するか、または仮想ボルトにあるアイテムを選択します。
- 2 Outlook の通常の操作によってアイテムを開きます。

アーカイブ済みアイテムの検索

Enterprise Vault による電子メールまたは別の Outlook アイテムのアーカイブ後、Outlook のクイック検索を使ってアイテムを検索できます。クイック検索では、仮想ボルト内のアーカイブ済みアイテムとメールボックス内のショートカットの両方が検索されます。

アーカイブ済みアイテムへのショートカットがなく、仮想ボルトにアイテムを確認できない場合は、Enterprise Vault の[ボルトの検索]機能を使うことができます。

[ボルトの検索]を使ってアーカイブ済みアイテムを検索する方法

- 1 [Enterprise Vault] タブの[検索]グループまたはその他の処理メニューで、[ボルトの検索]をクリックします。または、Outlook の[クイック検索]フィールドをクリックし、[検索]タブの[Enterprise Vault]グループで[ボルトの検索]をクリックします。
- 2 ログオンの詳細を確認するメッセージが表示されたら、情報を入力して[OK]をクリックします。
ログオンダイアログボックスに独立した[ドメイン]フィールドが存在しない場合は、ユーザー名を **domain_name\user_name** の形式で入力します。
- 3 検索基準を入力してから、検索を開始します。
- 4 必要に応じて、1 つ以上のアイテムをメールボックスの[復元済みアイテム]フォルダに復元します。復元済みアイテムフォルダは、アイテムの初回復元時に自動的に作成される Enterprise Vault のフォルダです。

検索機能の使用方法について詳しくは付属のヘルプを参照してください。

アーカイブ済みアイテムへの返信と転送

ショートカットが参照するアーカイブ済みアイテムまたは仮想ボルトのアーカイブ済みアイテムの返信または転送を行うことができます。Outlook では、他のアイテムの返信または転送を行う場合とまったく同じように、元の形式でアーカイブ済みアイテムが開かれます。

アーカイブ済みアイテムに返信する方法

- 1 アイテムのショートカットを選択するか、または仮想ボルトにあるアイテムを選択します。
p.26 の「[アーカイブ済みアイテムの復元](#)」を参照してください。
- 2 Outlook の通常の操作によってアイテムに返信します。

アーカイブ済みアイテムを転送する方法

- 1 アイテムのショートカットを選択するか、または仮想ボルトにあるアイテムを選択します。

メモ: ショートカットを使って、2 つ以上のアーカイブ済みアイテムをもとの形式で転送することはできません。転送するショートカットを複数選択した場合、Enterprise Vault は転送の電子メールに実際のショートカットを添付します。複数のアーカイブ済みアイテムをもとの形式で転送するには、仮想ボルトでアイテムを選択します。または、転送する前に、メールボックスにアーカイブ済みアイテムを復元します。

p.26 の「[アーカイブ済みアイテムの復元](#)」を参照してください。

- 2 Outlook の通常の操作によってアイテムを転送します。

アーカイブ済みアイテムの削除

ユーザーによるボルトのアイテムの削除を Enterprise Vault 管理者が許可している場合は、次の方法でアイテムを削除できます。Enterprise Vault 検索アプリケーションからアーカイブ済みアイテムを削除することもできます。

フォルダがメールボックスの中に存在しないときのみ、そのフォルダを仮想ボルトから削除できます。

ショートカットを使ってアーカイブ済みアイテムを削除する方法

- 1 削除するアーカイブ済みアイテムへのショートカットを選択します。
ショートカットでないアイテムを含めることもできますが、Enterprise Vault ではこのようなアイテムは無視されます。
- 2 [Enterprise Vault] タブの [処理] グループで、[削除] をクリックします。または、その他の処理メニューで [ボルトから削除] をクリックします。
- 3 [はい] をクリックして、ショートカットとアーカイブ済みアイテムの両方を削除することを確定します。

アイテムの横にあるアイコンが変わり、削除保留の状態が示されます。

ショートカットから開いたアイテムを削除する方法

- 1 アイテムを開いたウィンドウの[メッセージ]タブの[削除]グループで、[削除]をクリックします。
- 2 [はい]をクリックして、アイテムを削除することを確定します。
- 3 さらにメッセージが表示される場合は、ショートカットのみを削除するか、ショートカットとアーカイブ済みアイテムの両方を削除するかを選択します。

ショートカットのみを削除する場合は、オンラインボルトにアイテムが残るため、引き続き仮想ボルトからアイテムを取得できます。

仮想ボルトからアイテムを削除する方法

- 1 仮想ボルトのフォルダで、削除するアイテムを選択します。
- 2 [ホーム]タブの[削除]グループで、[削除]をクリックします。または、右クリックメニューで[削除]をクリックします。

仮想ボルトからフォルダを削除する方法

- 1 仮想ボルトで、削除するフォルダを選択します。
- 2 右クリックメニューで[フォルダの削除]をクリックします。
- 3 表示されるメッセージウィンドウで、[はい]をクリックして削除を確定するか、[いいえ]をクリックして取り消します。

p.10 の「[Enterprise Vault と Outlook の対話について](#)」を参照してください。

アーカイブ済みアイテムの削除の取り消し

アイテムが削除保留の状態の場合は、Enterprise Vault による操作の実行を停止できません。

アーカイブ済みアイテムの削除を取り消す方法

- 1 削除を取り消すアイテムを選択します。

Enterprise Vault が現在処理していないアイテムを含めることができますが、Enterprise Vault はそのようなアイテムを無視します。
- 2 [Enterprise Vault]タブの[処理]グループで、[キャンセル]をクリックします。または、その他の処理メニューで[キャンセル]をクリックします。

アイテムの格納と復元

この章では以下の項目について説明しています。

- [手動によるアイテムの格納](#)
- [手動によるフォルダの格納](#)
- [アーカイブ済みアイテムの復元](#)
- [アーカイブ操作と復元操作の取り消し](#)

手動によるアイテムの格納

Enterprise Vault はバックグラウンドで自動アーカイブを実行するため、ユーザーが操作する必要はありません。ただし、手動で 1 つ以上のアイテムをボルトに格納する必要があります。手動で格納できるのは、管理者がそれを許可するように Enterprise Vault を設定している場合です。

Outlook の [Enterprise Vault] タブにあるオプションを使ってアイテムを格納できます。アイテムを仮想ボルトに移動またはコピーして格納することもできます。仮想ボルトに移動またはコピーしてアイテムを格納する場合は、アーカイブ操作を取り消すことはできません。

Exchange が管理するフォルダからアイテムを格納するには、Enterprise Vault オプションを使う必要があります。Exchange が管理するフォルダのアーカイブを管理者が有効にしても、これらのアイテムしか格納できません。

仮想ボルトでは Exchange が管理するフォルダの内容は変更できません。

Enterprise Vault オプションを使ってアイテムを格納する方法

- 1 メールボックスで、格納する 1 つ以上のアイテムを選択します。
- 2 [Enterprise Vault] タブの [処理] グループで、[格納] をクリックします。または、その他の処理メニューで [ボルトに格納] をクリックします。
- 3 [OK] をクリックして、アイテムを格納することを確定します。

仮想ボルトを使ってアイテムを格納する方法

- 1 格納する1つ以上のアイテムを選択します。
- 2 Outlook の通常の操作によって仮想ボルトにアイテムを移動またはコピーします。
たとえば、次の方法でアイテムを格納できます。
 - アイテムを移動するには、格納する仮想ボルトフォルダにドラッグします。または右クリックしてから[移動]をクリックして仮想ボルトフォルダを選択します。
 - アイテムをコピーするには、Ctrlキーを押しながら、格納する仮想ボルトフォルダにドラッグします。

p.10 の「[Enterprise Vault と Outlook の対話について](#)」を参照してください。

手動によるフォルダの格納

Enterprise Vault はバックグラウンドで自動アーカイブを実行するため、ユーザーが操作する必要はありません。ただし、手動でボルト内のフォルダ全体を格納する必要がある場合があります。フォルダの内容全体を選択し、アイテムを手動で格納できます。また、管理者がフォルダの格納を許可するように Enterprise Vault を設定している場合はフォルダを格納できます。メールボックス全体を格納することはできません。

仮想ボルトを有効にしている場合は、次の手順を実行できます。

フォルダを格納する方法

- 1 格納するフォルダを選択します。
- 2 Outlook の通常の操作によって仮想ボルトにフォルダを移動またはコピーします。
たとえば、次の方法でフォルダを格納できます。
 - フォルダを移動するには、そのフォルダを右クリックします。次に、[移動]、[その他のフォルダー]の順にクリックして[アイテムの移動]ダイアログボックスにある仮想ボルトフォルダを選択します。
 - フォルダをコピーするには、そのフォルダを右クリックします。次に、[移動]、[フォルダへコピー]の順にクリックして[アイテムのコピー]ダイアログボックスにある仮想ボルトフォルダを選択します。

p.7 の「[Outlook ユーザーの仮想ボルトについて](#)」を参照してください。

アーカイブ済みアイテムの復元

アーカイブ済みアイテムはショートカットまたは仮想ボルトから簡単に表示できるため、通常、そのアイテムをメールボックスに復元する必要はありません。アイテムを復元すると、そのアイテムは元の形式で復元されます。たとえば、復元したアイテムがメールメッセージの場合は、通常どおりに返信もできます。

次のいずれかの方法でアーカイブ済みアイテムを復元できます。

- ショートカットを使います。ショートカットから復元するアイテムは、常に現在のフォルダ（ショートカットが存在するフォルダ）に復元されます。
- 仮想ボルトからメールボックスにアイテムをコピーまたは移動する Outlook の通常の操作を使います。

パブリックフォルダにアイテムを復元するには、そのフォルダへの所有者アクセス権を持っている必要があります。所有者アクセス権を持っていない場合は、パブリックフォルダからメールボックスにショートカットをコピーすることができます。ここで、メールボックスにアイテムを復元できます。

Enterprise Vault では、オフラインで格納されているアイテムを復元する場合、時間がかかります。

ショートカットからアーカイブ済みアイテムを復元する方法

- 1 ショートカットがパブリックフォルダまたは PST ファイルに存在する場合は、ショートカットをメールボックス内のフォルダにコピーします。
- 2 メールボックスで、復元するアイテムへのショートカットを選択します。Outlook での通常の方法を使って、1 つまたは複数のショートカットを選択します。ショートカットでないアイテムを含めることもできますが、Enterprise Vault ではこのようなアイテムは無視されます。
- 3 [Enterprise Vault] タブの[処理]グループで、[復元]をクリックします。または、その他の処理メニューで[復元]をクリックします。
- 4 [OK]をクリックして、アイテムを復元することを確定します。元のアイテムがメールボックスに復元されます。

仮想ボルトからアーカイブ済みアイテムを復元する方法

- 1 仮想ボルトで、復元するアイテムを選択します。Outlook での通常の方法を使って、1 つまたは複数のアイテムを選択します。
- 2 Outlook の通常の操作によってメールボックスにアイテムを移動またはコピーします。

たとえば、次の方法でアイテムを復元できます。

- アイテムを移動するには、復元するメールボックスフォルダにドラッグします。または右クリックしてから[移動]、[その他のフォルダー]をクリックして[アイテムの移動]ダイアログボックスにあるメールボックスフォルダを選択します。
- アイテムをコピーするには、Ctrl キーを押しながら、復元するメールボックスフォルダにドラッグします。

p.10 の「Enterprise Vault と Outlook の対話について」を参照してください。

アーカイブ操作と復元操作の取り消し

メールボックス内のアイテムがアーカイブ保留または復元保留の状態の場合は、Enterprise Vault による操作の実行を停止できます。

通常、アーカイブ操作や復元操作を取り消す必要はありません。アーカイブ保留または復元保留の状態のアイテムを開く場合は、そのアイテムをダブルクリックします。

仮想ボルトにあるアイテムに対してアーカイブ操作や復元操作を取り消すことはできません。

アーカイブ操作と復元操作を取り消す方法

- 1 操作を取り消すアイテムを選択します。

Enterprise Vault が現在処理していないアイテムを含めることができますが、Enterprise Vault はそのようなアイテムを無視します。

- 2 [Enterprise Vault] タブの[処理]グループで、[キャンセル]をクリックします。または、その他の処理メニューで[キャンセル]をクリックします。

Enterprise Vault アーカイブ の管理

この章では以下の項目について説明しています。

- [ボルトキャッシュの同期](#)
- [ボルトキャッシュのプロパティの表示と変更](#)

ボルトキャッシュの同期

Enterprise Vault では、Outlook のメールボックスに関連付けされたオンラインボルトと同期させることで、ボルトキャッシュが最新の状態に保たれています。

次の処理ができるように、管理者が Enterprise Vault を設定している場合もあります。

- ボルトキャッシュをいつでも同期できるようにします。
- 同期を中断します。同期を中断すると、現在の同期処理が停止し、Enterprise Vault ではそれ以降のボルトキャッシュの更新が行われません。

メモ: 同期の再開を選択するまで、Outlook を停止して再起動しても、同期は中断されたままになります。

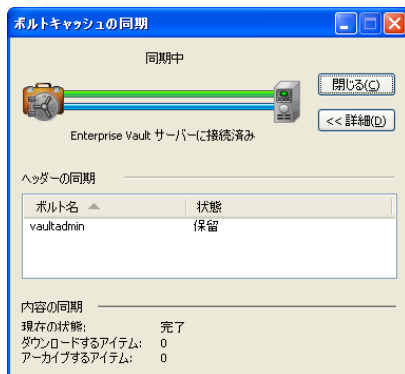
- アクセス権のある他のボルトとボルトキャッシュを同期します。

Enterprise Vault は、どのアイテムをボルトキャッシュにダウンロードするかを自動的に決定します。

ボルトキャッシュを同期する方法

- ◆ [Enterprise Vault] タブの [ボルトキャッシュ] グループで、[同期] をクリックします。または、その他の処理メニューで [ボルトキャッシュを同期] をクリックします。

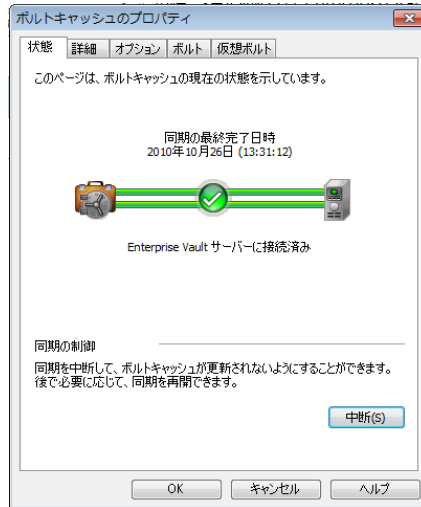
[ボルトキャッシュの同期] ダイアログボックスが表示されます。



[ボルトキャッシュの同期] ダイアログボックスに、同期処理についての概略情報が表示されます。同期処理中はこのダイアログボックスを閉じて、**Outlook**での作業を続行できます。

同期を中断または再開する方法

- 1 [ファイル]タブをクリックし、[Enterprise Vault]をクリックします。
- 2 [ボルトキャッシュを設定]をクリックします。
[ボルトキャッシュのプロパティ]ダイアログボックスが表示されます。

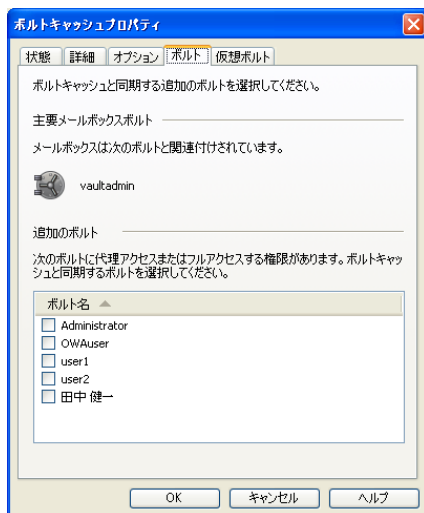


- 3 [ボルトキャッシュのプロパティ]ダイアログボックスの[状態]タブで、[中断]または[再開]をクリックします。

同期する追加のボルトを選択する方法

- 1 [ファイル]タブをクリックし、[Enterprise Vault]をクリックします。
- 2 [ボルトキャッシュを設定]をクリックします。

- 3 [ボルトキャッシュのプロパティ]ダイアログボックスで、[ボルト]タブをクリックします。



[ボルト]タブがない場合、管理者はこの機能を有効にしています。

- 4 追加のボルトを選択するには、名前の横にチェックマークを付けます。
- 5 [OK]をクリックします。

同期処理が終了すると、仮想ボルトに追加のボルトが表示されます。

ボルトキャッシュのプロパティの表示と変更

[ボルトキャッシュのプロパティ]ダイアログボックスには最大5つのタブ付きページを含めることができます。管理者は、ダイアログボックスに含めるタブを制御します。

適切なタブが利用可能である場合、[ボルトキャッシュのプロパティ]ダイアログボックスでは、次の操作を実行できます。

- 同期を中断または再開します。
- 同期を開始します。
- 同期の進捗状況を表示します。
- ボルトキャッシュ内のアイテムの内容に使うディスク領域を設定します。
- Outlook を起動してから、ボルトキャッシュと同期するアイテムを Enterprise Vault がチェックするまでの時間を設定します。
- メールボックスに関連付けされているメインボルトの他に、ボルトキャッシュと同期するボルトを選択します。

- Outlook のナビゲーションペインに仮想ボルトとして表示するボルトを選択します。

ボルトキャッシュのプロパティを表示、変更する方法

- 1 [ファイル]タブをクリックし、[Enterprise Vault]をクリックします。
- 2 [ボルトキャッシュを設定]をクリックします。

[ボルトキャッシュのプロパティ]ダイアログボックスには 1 つ以上のタブがあります。現在選択しているタブについて詳しくは、[ボルトキャッシュのプロパティ]ダイアログボックスの[ヘルプ]をクリックしてください。

記号

アイコン 20

アイテム

アーカイブ操作と復元操作の取り消し 28

ショートカットからの表示 21

仮想ボルトからの表示 21

削除の取り消し 24

手動による格納 25

検索 22

アイテムの復元

ショートカットから 26

仮想ボルトから 26

アイテムの格納 25

アーカイブ

取り消し 28

手動 25～26

アーカイブ保留 20、28

アーカイブ戦略 9

アーカイブ済みアイテムの検索 22

アーカイブ済みアイテムの経過日数 9～10

アーカイブ済みアイテムの表示 21

アーカイブ済みアイテムの転送 22

アーカイブ済みアイテムへの返信 22

オフラインでの作業 6、8

ショートカット

アイテムの削除 23

アイテムの復元 26

アイテムの表示 21

概要 5

返信と転送 22

スレッドビュー 10

フォルダ

Exchange が管理するフォルダからのアーカイブ 25

手動による格納 26

ボルト

アイテムの削除 23

アイテムの格納 25～26

アイテムの検索 22

[ボルトキャッシュ] 6、8、11、14、29、32

ボルトからのアイテムの削除 23

ボルトキャッシュの同期 29

メールボックス

アイコン 20

仮想ボルト 6～7

Windows Search の設定 14

アイテムの削除 23

アイテムの復元 26

アイテムの検索 22

アイテムの表示 21

設定 11

返信と転送 22

非表示または表示 13

保持カテゴリ 10

保持期間 10

削除保留 20、24

古いアイテムの整理

無効化 13

復元保留 20、28

手動格納 26

概要 5

管理対象フォルダ 25

[ボルトキャッシュ] 6、8

Windows Search の設定 14

プロパティ 32

同期 29

設定 11

B

Backstage ビュー 19～20

E

Enterprise Vault 操作の取り消し 24、28

P

PST ファイル 6、27

W

Windows Search 14